

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 鶴ヶ岱 1階	評価実施年月日	H21. 1. 6 ~ H21. 2. 6
評価実施構成員氏名	小椋 山本 石塚 山崎 久保		
記録者氏名	磯田 繁之	記録年月日	平成21年 2月 15日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	ホームの理念として「家族、地域と共に支えあう生活」を掲げ取り組んでいる。	○ 地域の中でその人らしく暮らし続けるための支援をしている。
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	職員全員が理念を理解し、実現に向け取り組んでいる。	○ 事務所近くに運営理念を掲げ常に見れるようにしてある。生活記録のファイル台帳にも貼付し、都度確認出来るようにしてある。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	定期的な運営推進会議において、ご家族、地域の方々や関係協力機関に理解してもらえるよう取り組みをしている。	○ 町内会の行事、ホームの行事等にも声を掛け合い交流を深めている。今後も継続して行きたい。
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	近隣の住人のボランティアの協力を得たり、ホーム周辺の家庭から畑の野菜を頂いたり、花を見せて頂いたり、お話し相手になって頂いている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会の一員として、会議、又行事のときは、お互い声を掛け合い参加し、交流を深めている。近隣の学校からの文化祭の招待等にも参加させていただいている。	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域の様々な研修、会合に参加し、認知症ケアの啓発に努めている。又地域の方から、認知症について相談を受ける事もある。実習生の受け入れも行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員全員が自己評価に取り組み問題点の再認識をしサービスの質の向上に努めている。外部評価で指摘された項目は改善し、実践に努めている。	○ 新しい職員が増えたので、自己評価、外部評価の意義について説明している。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議では、自己評価、外部評価の結果を公表し、改善経過の報告と共に参加メンバーより意見、要望を受けサービスの向上に努めている。	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	管理者がその都度、市役所に出向いて担当者と話し合い取り組んでいる。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	成年後見制度を利用している利用者はいないが管理者、職員は研修や文書等で権利擁護事業、成年後見制度について学んでいる。	○ 現在は該当する利用者はいないが、今後対応が必要と思われる利用者には活用できるよう支援していきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修、職員会議等で学び全職員が正しく認識し、防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には事業所のケアに関する変え方や取り組み、解約を含めた対応可能な範囲についての説明を行い、理解、納得を得ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者から不満、苦情、意見等があった時はその都度話を聞き、利用者本位のケアを心がけている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月通信にて金銭出納帳のコピー、領収書と共に近況報告を行い、必要に応じてその都度電話、来訪時等で個別対応している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には手紙、来訪時、電話等でその都度、意見、要望等を聞く機会を設け運営に反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議、個別面談、ミニミーティング等で職員の意見、要望を聞く機会を設け、反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者、家族の状況に合わせて勤務時間を変動的に調整し対応に努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限に抑え利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	新職員には、利用者とのコミュニケーションを図るよう声かけしている。食事会、散歩、ミニドライブなど外出の機会を増やし、気分転換にも努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	個々に合わせた研修に参加し職員会議等で発表し、自己研鑽につとめている。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	研修や勉強会以外にも相互訪問等交流する機会をつくっている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	年に数回、職員相互の親睦会の実施、他悩みの聴取を行いストレス軽減、解消に努めている。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	向上心を持って働けるよう研修等に数多く参加できるように努めている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	事前面談で生活状態の把握に努め本人、家族の思いを受け止める努力をしている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	ご家族の苦勞や不安、望んでいる事を理解し、どのような対応がよいのか話合いをもち受け止める努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>早急な対応が必要な場合には地域のケアマネと連携を取りながら可能な限り柔軟な対応をしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人や家族に事業所を見学して頂き、ホームの雰囲気慣れて頂けるよう家族と相談しながら支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者から学ぶことも多くあり、喜怒哀楽を共にし、コミュニケーションを図りながら支え合う関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>協力関係が築けるよう日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め本人を支える為支援している。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>本人、家族の思いを見極めながら行事への参加、来訪等の声かけでより良い関係が築いていけるよう支援している。</p>	○	<p>一緒に過ごせる時間を少しでも多く出来るよう行事、面会等の声かけを継続して行きたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>外出の機会を増し、馴染みの場所へ出掛けたり、友人、知人等の来訪時は居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援に努めている。</p>	○	<p>個々の生活習慣を尊重し、今後も支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わりを持ち、支え合えるよう、又孤立することがないよう職員が調整役となり支援している。		自室ではなく出来るだけ共有フロア(リビング)で過ごす時間を多くするようにしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現状は、サービスが終了した時点で家族との関係はとぎれている。	○	今後、家族からの相談、要望がある時にはその都度対応していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、出来る限り本人本位の生活になるよう支援している。	○	家族を交え、本人がどのように暮らす事が最良なのか今後も検討していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等、入居に至る迄の経過を家族、関わったケアマネより情報を頂き、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活記録により、一日の過ごし方、心身状態等を把握し、職員間の連携を密に本人の出来る、わかる力を把握するように努めている。	○	センター方式のシートを活用し、本人の全体像の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	認知症の人の為のシート(心身の情報、私の姿と気持ちシート及び24時間アセスメントまとめシート)等を全職員で作成しアセスメントをし、本人、家族より意見を聞き、反映した介護計画を作成している。		利用者本位の介護計画になるよう日々暮らしの現状の把握に努め、本人、家族の意見を取りいれている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画に応じて見直しを行うとともに、特別な状況変化が生じた場合は、その都度現状に即した新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し、日々の暮らしの様子、身体的状況、状態変化等をケア記録に記載し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	日々の記録を元に介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況、その時々々の要望に応じ支援に努めている。	○	今後も出来る限りの支援を行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	SOSネットワークを作成し、警察、消防へもお願いし、又、町内会との連携を取りながら地域資源を活用している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望に添ったサービス提供が出来るよう支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議や行事に参加して頂き協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ケアマネが看護師としての経験があるので、相談に乗って頂いたり、訪看の看護師にもその都度健康管理のための相談、指示を頂いている。他かかりつけ医の受診支援と共に、訪問医の往診により適切な医療が受けられるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	個々に病院は利用しているが認知症の専門医受診とはなっていない。	○	適切な指示や助言をしてくれる医師の確保に努めたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと連携し、一人ひとりの健康管理、相談、助言、時には指示を頂く等対応して頂いている。24時間相談可能である。	○	訪問看護ステーションの看護師とは、気軽に相談出来る関係になっている。24時間対応なので夜間、特に心強い。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院によるダメージを最小限にするため早く退院出来るようアプローチしている。家族とも情報交換をしながら退院支援に結びつけている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に向けた対応はホーム内研修で共有しているが終末期については体制が不十分である。	○	終末期のあり方については検討しているが、医療連携をむすべる医師の確保が難しいが現状である。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族や本人が望むなら終末期をホームで過ごしてもらいたいが、医療体制や環境整備は整っていない。	○	医療体制は整っていないが出来る限りの支援はしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	利用者の状況に合わせ暮らしやケアの継続が保たれるよう情報交換をし連携を心がけている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの人格、個性を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう接している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が思いや希望を表せるよう個別対応で、自己決定が出来る場面作りの支援を心がけている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の体調に配慮しながら、その時の気持ちを尊重し、出来るだけ個性のある支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その時々合った身だしなみを支援し、定期的に馴染みの美容師へ来設依頼し、整髪して頂いたり、近所の馴染みの美容室へ、出かけたりしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の好みを把握し、メニューに反映させたり体調、口腔の状態に合わせた調理をし、準備や食事片付けが、可能な利用者とは一緒に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは手作りを含め、季節感のある物、好みの物を提供し、飲み物も楽しみが持てるようメニュー表を掲げ、好みの物を提供している。アルコール好きな方がいるが主治医の指示で禁止している。タバコを吸う方はいない。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、排泄パターン、習慣を把握し、時間で誘導したり、状態から推測して声かけ誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一週間に2～3回は入浴があり、一人ひとりの体調、タイミングに合わせて気持ち良く入ってもらえるよう支援している。	○	入浴前には血圧、体温の測定を行い精神状態もかね合わせて入浴を見極めている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動も支援しながら、本人の体調や気分を考慮し自室やリビングのソファで自由に休めるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう役割、楽しみごとの場面作りの支援をし感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持を希望する利用者にはお小遣いとして自分の財布を持って頂き、一緒に買い物に行く等個別対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の気分や体調に応じて季節を肌で感じて頂き心身の活性につながるよう、散歩、ドライブ、食事会等の支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者からの希望を尊重し実現するための方策を職員同士で検討し支援している。	○	花見、動物園見学等には家族にも参加して頂き、今後も継続していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から家族に電話をかけたいとの申し入れがあった時は、自由にお話しが出来るよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、馴染みの人たちの訪問時は居心地の良い時間を過ごして頂けるような雰囲気作りを心がけている。希望時は食事、宿泊にも対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフで身体拘束に関する委員会を作り、会議等で拘束しないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は見守りを強化し鍵を掛けないケアに取り組んでいるが、夜間は1・2階を一人体制で見ている為鍵を掛けさせていただいている。(20時～6時)		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は居間、台所の職員がさりげなく見守りをし安全に配慮している。夜間は数時間毎の巡回をしている。</p>		<p>夜間は夜勤者1名にて1・2階の利用者対応の為巡回と共に、モニターにて安全確認をしている。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者の状況変化に合わせてその都度、保管管理が必要なものは所定の場所で管理している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>研修、会議、勉強会を通じ事故防止に努めている。又緊急時には地域の協力も得られるよう働きかけている。</p>		<p>事故発生時にはすみやかに家族、関係機関への説明と報告を行っている。事故の再発防止の為、ヒヤリハットの記録と予測される危険について周知徹底を図り事故防止に努めていきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防署での応急手当の勉強会(実技含む)で学んだり、職員会議等でも繰り返し、周知徹底を図り、マニュアルを作成し、目の届く所に掲げ、スタッフ自身の自覚を促している。蘇生術については、新職員対応として職会でも実技講習を行うようにしている。</p>		<p>緊急時の初期対応については、常に優先順位が何なのか、パニックにならないための自分自身でできるイメージトレーニングの必要性も促している。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難階段の設置と共に昼夜想定の前、年に2回避難訓練を実施している。2階は特に非常口から出て、避難階段を全員体験して頂いている。夜間緊急時は3階の住人にも協力要請をし、了解を得ている。</p>	○	<p>今年度からは町内会の方々にも避難訓練に参加して頂き協力を得ている。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしにした対応策を話し合っている。</p>	<p>一人ひとりに起こり得るリスクについては家族と率直に話し合い、抑圧感のない暮らしをして頂く為、理解を得られるように努めている。</p>	○	<p>安全を優先するとADLの低下、本人の残存機能を生かしたいと思うとリスクが伴う、家族の思い、理解を得るための話し合いを今後も継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常的にバイタルチェックを行い記録をつけている。状態変化時は早めに訪看や往診医に相談し、指示を仰ぎ、状況により受診している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬支援はある程度出来ているが、副作用までは把握しきれていない。	○	体調変化時は処方せんを見て副作用の把握に努めている。又訪看に相談している。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食材の工夫や水分量、運動を働きかけることで、排便薬の減少に努めている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの口腔状態や力に応じて個別対応の支援をしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの健康状態に応じ食事摂取量、水分量を把握し支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めに基づいて感染症に対する予防、情報収集に努め対応している。全員がインフルエンザの予防接種を受け、ノロウイルス他予防策として消毒の徹底を行っている。	○	今後も感染症対策は継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具、台所排水の消毒を毎日行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。冷蔵庫、冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ベンチやプランター等を置き、季節感を感じられるよう工夫している。		冬季間の落雪予防の為融雪工事を実施し、玄関まわりの安全対策をしている。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音の大きさや、光の強さには、その都度配慮し調整をしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間の食卓イスや、ソファーを利用し、好きな場所で自由に過ごせるよう配慮している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が使い慣れた物や好みの物を置いて安心して過ごせるよう配慮している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の掃除の際の換気に加え、必要に応じた換気、温度調節の配慮している。		室温確認の為、各居室に温度計を設置した。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者の状態に合わせ、手すり等を設置により安全に歩行できるよう支援している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの残存機能を活用し、自立した暮らしが出来るよう支援しているが混乱や失敗が生じた場合はその都度、職員一同で話し合い、力を取り戻せるよう支援している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏は畑や玄関周りの花の鉢植え等に、水やり、収穫などで外に出る機会の支援をしている。又玄関先、花畑にベンチを置いて利用者が涼しんだり、ひなたぼっこが出来るような工夫をしている。</p>	

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>センター方式を活用し、利用者の把握に努め利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴むよう努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>一日の流れの中でゆったりと過ごす場面を設けるよう心がけている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>狭い空間の中でも、一人ひとりのペースで暮らしていけるよう配慮している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>コミュニケーションが難しい利用者もいるが、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>外出希望の利用者には出きるだけ個別対応しているが、外出を嫌う利用者もいる為、外へ出かける機会を増やせるよう支援していきたい。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>体調不良時はその都度訪看のNSや家族と連絡を取り必要に応じて受診している。今後も不安なく過ごせるよう配慮していく。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その時々状況や要望に応じた柔軟な対応が出きるよう心がけている。今後も安心した暮らしが出きるよう支援していく。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>家族からの要望には出来る限り対応しており良好な関係が保てるよう心がけている。更に信頼関係が築けていけるよう努めていきたい。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>来設者には、アットホーム的な雰囲気を持って成しゆっくりして頂けるよう支援している。</p>

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	多いに増えている。少しずつ増えている。あまり増えていない。全くいない。	町内会、ホームの行事には、お互い声を掛けあい参加する事でつながりが深まっている。又災害時地域住民との協力体制も出来、避難訓練にも参加して頂いている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が職員の2/3くらいが職員の1/3くらいがほとんどいない	新人職員の増加によりチームワークを重要視し、生き生きと働ける職場である為の配慮を今後も継続する。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない	全員とはいえないが出来る事はサービスに反映させるように取り組んでいる。今後も利用者の、望んでいる事を察知し、サービスの向上に努めたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が家族等の2/3くらいが家族等の1/3くらいがほとんどいない	外出行事、イベント等にも気軽に参加して頂き、その都度家族から感謝の言葉を頂いている。今後も家族の協力を得ながらサービスの向上に努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

環境面では恵まれており、近くには春採湖、大型ショッピングセンターがあり絶好の散歩コースとして利用しています。散歩中には近所の庭の花を見せて頂いたり、春採湖の自然を満喫しながらヒブナを見たり利用者喜んで頂いています。医療面でも近くに総合病院他個人病院もあるので通院は便利です。運営推進会議を通して町内会、地域との連携も出来、お互いのイベントには声を掛け合い参加し交流を深めています。春には、玄関先に、利用者と一緒に花壇用の花を買ってきてプランターに植え、畑にも野菜の種をまき、収穫を楽しみ食卓を賑やかにしています。ホーム内では近所の方がカラオケ、ハーモニカ演奏、他ボランティアグループの方達が手づくりのゲーム、楽しみながら手足の運動等をして下さるので利用者も一緒に楽しんでいます。筋力低下防止の為、リズム体操、個々の残存能力を考慮しスクワット運動、家事参加への場面作り、1F・2Fの利用者同士の交流。又利用者の互いの居室訪問等の自主的な交流も増えてきている。散歩を日課として取り組んだ結果、現在は外出に対して利用者からの積極的な要望も多くなってきている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~、小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 鶴ヶ岱 2階	評価実施年月日	H21. 1. 6 ~ H21. 2. 6
評価実施構成員氏名	上林 山田 辻 小西 石田		
記録者氏名	池田 和子	記録年月日	平成21年 2月 15日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	ホームの理念として「家族、地域と共に支えあう生活」を掲げ取り組んでいる。	○ 地域の中でその人らしく暮らし続けるための支援をしている。
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	職員全員が理念を理解し、実現に向け取り組んでいる。	○ 事務所近くに運営理念を掲げ常に見れるようにしてある。生活記録のファイル台帳にも貼付し、都度確認出来るようにしてある。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	定期的な運営推進会議において、ご家族、地域の方々や関係協力機関に理解してもらえよう取り組みをしている。	○ 町内会の行事、ホームの行事等にも声を掛け合い交流を深めている。今後も継続して行きたい。
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	近隣の住人のボランティアの協力を得たり、ホーム周辺の家庭から畑の野菜を頂いたり、花を見せて頂いたり、お話し相手になって頂いている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会の一員として、会議、又行事のときは、お互い声を掛け合い参加し、交流を深めている。近隣の学校からの文化祭の招待等にも参加させていただいている。	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域の様々な研修、会合に参加し、認知症ケアの啓発に努めている。又地域の方から、認知症について相談を受ける事もある。実習生の受け入れも行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員全員が自己評価に取り組み問題点の再認識をしサービスの質の向上に努めている。外部評価で指摘された項目は改善し、実践に努めている。	○ 新しい職員が増えたので、自己評価、外部評価の意義について説明している。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議では、自己評価、外部評価の結果を公表し、改善経過の報告と共に参加メンバーより意見、要望を受けサービスの向上に努めている。	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	管理者がその都度、市役所に出向いて担当者と話し合い取り組んでいる。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	成年後見制度を利用している利用者はいないが管理者、職員は研修や文書等で権利擁護事業、成年後見制度について学んでいる。	○ 現在は該当する利用者はいないが、今後対応が必要と思われる利用者には活用できるよう支援していきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修、職員会議等で学び全職員が正しく認識し、防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には事業所のケアに関する変え方や取り組み、解約を含めた対応可能な範囲についての説明を行い、理解、納得を得ている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	利用者から不満、苦情、意見等があった時はその都度話を聞き、利用者本位のケアを心がけている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	毎月通信にて金銭出納帳のコピー、領収書と共に近況報告を行い、必要に応じてその都度電話、来訪時等で個別対応している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	家族には手紙、来訪時、電話等でその都度、意見、要望等を聞く機会を設け運営に反映させている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	毎月の職員会議、個別面談、ミニミーティング等で職員の意見、要望を聞く機会を設け、反映させている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	利用者、家族の状況に合わせ勤務時間を変則的に調整し対応に努めている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	職員の異動は最小限に抑え利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	新職員には、利用者との心のコミュニケーションを図るよう声かけしている。食事会、散歩、ミニドライブなど外出の機会を増やし、気分転換にも努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	個々に合わせた研修に参加し職員会議等で発表し、自己研鑽につとめている。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	研修や勉強会以外にも相互訪問等交流する機会をつくっている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	年に数回、職員相互の親睦会の実施、他悩みの聴取を行いストレス軽減、解消に努めている。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	向上心を持って働けるよう研修等に数多く参加できるように努めている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	事前面談で生活状態の把握に努め本人、家族の思いを受け止める努力をしている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ご家族の苦勞や不安、望んでいる事を理解し、どのような対応がよいのか話し合いをもち受け止める努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>早急な対応が必要な場合には地域のケアマネと連携を取りながら可能な限り柔軟な対応をしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人や家族に事業所を見学して頂き、ホームの雰囲気に慣れて頂けるよう家族と相談しながら支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>家事全般を一緒に行う雰囲気作りに努め、協働生活の中から本人の思いを受けとめ学び、喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>協力関係が築けるよう日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め本人を支える為支援している。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>本人、家族の思いを見極めながら行事への参加、来訪等の声かけでより良い関係が築いていけるよう支援している。</p>	○	一緒に過ごせる時間を少しでも多く出来るよう行事、面会等の声かけを継続して行きたい。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>外出の機会を増し、馴染みの場所へ出掛けたり、友人、知人等の来訪時は居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援に努めている。</p>	○	個々の生活習慣を尊重し、今後も支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わりを持ち、支え合えるよう、又孤立することがないよう職員が調整役となり支援している。		自室ではなく出来るだけ共有フロア(リビング)で過ごす時間を多くするようにしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現状は、サービスが終了した時点で家族との関係はとぎれている。	○	今後、家族からの相談、要望がある時にはその都度対応していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、出来る限り本人本位の生活になるよう支援している。	○	家族を交え、本人がどのように暮らす事が最良なのか今後も検討していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等、入居に至る迄の経過を家族、関わったケアマネより情報を頂き、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活記録により、一日の過ごし方、心身状態等を把握し、職員間の連携を密に本人の出来る、わかる力を把握するように努めている。	○	センター方式のシートを活用し、本人の全体像の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	認知症の人の為のシート(心身の情報、私の姿と気持ちシート及び24時間アセスメントまとめシート)等を全職員で作成しアセスメントをし、本人、家族より意見を聞き、反映した介護計画を作成している。		利用者本位の介護計画になるよう日々暮らしの現状の把握に努め、本人、家族の意見を取りいれている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画に応じて見直しを行うとともに、特別な状況変化が生じた場合は、その都度現状に即した新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し、日々の暮らしの様子、身体的状況、状態変化等をケア記録に記載し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	日々の記録を元に介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況、その時々々の要望に応じ支援に努めている。	○	今後も出来る限りの支援を行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	SOSネットワークを作成し、警察、消防へもお願いし、又、町内会との連携を取りながら地域資源を活用している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望に添ったサービス提供が出来るよう支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議や行事に参加して頂き協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ケアマネが看護師としての経験があるので、相談に乗って頂いたり、訪看の看護師にもその都度健康管理のための相談、指示を頂いている。他かかりつけ医の受診支援と共に、訪問医の往診により適切な医療が受けられるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	個々に病院は利用しているが認知症の専門医受診とはなっていない。	○	適切な指示や助言をしてくれる医師の確保に努めたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと連携し、一人ひとりの健康管理、相談、助言、時には指示を頂く等対応して頂いている。24時間相談可能である。	○	訪問看護ステーションの看護師とは、気軽に相談出来る関係になっている。24時間対応なので夜間、特に心強い。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院によるダメージを最小限にするため早く退院出来るようアプローチしている。家族とも情報交換をしながら退院支援に結びつけている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に向けた対応はホーム内研修で共有しているが終末期については体制が不十分である。	○	終末期のあり方については検討しているが、医療連携をむすべる医師の確保が難しいが現状である。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族や本人が望むなら終末期をホームで過ごしてもらいたいが、医療体制や環境整備は整っていない。	○	医療体制は整っていないが出来る限りの支援はしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	利用者の状況に合わせ暮らしやケアの継続が保たれるよう情報交換をし連携を心がけている。		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの人格、個性を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう接している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が思いや希望を表せるよう個別対応で、自己決定が出来る場面作りの支援を心がけている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の体調に配慮しながら、その時の気持ちを尊重し、出来るだけ個性のある支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その時々合った身だしなみを支援し、定期的に馴染みの美容師へ来設依頼し、整髪して頂いたり、近所の馴染みの美容室へ、出かけたりしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の好みを把握し、メニューに反映させたり体調、口腔の状態に合わせた調理をし、準備や食事片付けが、可能な利用者とは一緒に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは手作りを含め、季節感のある物、好みの物を提供し、飲み物も楽しみが持てるようメニュー表を掲げ、好みの物を提供している。アルコール好きな方がいるが主治医の指示で禁止している。タバコを吸う方はいない。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、排泄パターン、習慣を把握し、時間で誘導したり、状態から推測して声かけ誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一週間に2～3回は入浴があり、一人ひとりの体調、タイミングに合わせて気持ち良く入ってもらえるよう支援している。	○	入浴前には血圧、体温の測定を行い精神状態もかね合わせて入浴を見極めている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動も支援しながら、本人の体調や気分を考慮し自室やリビングのソファで自由に休めるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう役割、楽しみごとの場面作りの支援をし感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持を希望する利用者にはお小遣いとして自分の財布を持って頂き、一緒に買い物に行く等個別対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の気分や体調に応じて季節を肌で感じて頂き心身の活性につながるよう、散歩、ドライブ、食事会等の支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者からの希望を尊重し実現するための方策を職員同士で検討し支援している。	○	花見、動物園見学等には家族にも参加して頂き、今後も継続していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から家族に電話をかけたいとの申し入れがあった時は、自由にお話しが出来るよう支援している。		今年、家族への年賀状書きを試みたところ家族からとても喜ばれ、返信もあり利用者も喜んでくれたので今後も継続していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、馴染みの人たちの訪問時は居心地の良い時間を過ごして頂けるような雰囲気作りを心がけている。希望時は食事、宿泊にも対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフで身体拘束に関する委員会を作り、会議等で拘束しないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は見守りを強化し鍵を掛けないケアに取り組んでいるが、夜間は1・2階を一人体制で見ている為鍵を掛けさせていただいている。(20時～6時)		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は居間、台所の職員がさりげなく見守りをし安全に配慮している。夜間は数時間毎の巡回をしている。</p>		<p>夜間は夜勤者1名にて1・2階の利用者対応の巡回には、モニターにて安全確認をしている。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者の状況変化に合わせてその都度、保管管理が必要なものは所定の場所で管理している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>研修、会議、勉強会を通じ事故防止に努めている。又緊急時には地域の協力も得られるよう働きかけている。</p>		<p>事故発生時にはすみやかに家族、関係機関への説明と報告を行っている。事故の再発防止の為、ヒヤリハットの記録と予測される危険について周知徹底を図り事故防止に努めていきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防署での応急手当の勉強会(実技含む)で学んだり、職員会議等でも繰り返し、周知徹底を図り、マニュアルを作成し、目の届く所に掲げ、スタッフ自身の自覚を促している。蘇生術については、新職員対応として職会でも実技講習を行うようにしている。</p>		<p>緊急時の初期対応については、常に優先順位が何なのか、パニックにならないための自分自身でできるイメージトレーニングの必要性も促している。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難階段の設置と共に昼夜想定の前、年に2回避難訓練を実施している。2階は特に非常口から出て、避難階段を全員体験して頂いている。夜間緊急時は3階の住人にも協力要請をし、了解を得ている。</p>	○	<p>今年度からは町内会の方々にも避難訓練に参加して頂き協力を得ている。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしにした対応策を話し合っている。</p>	<p>一人ひとりに起こり得るリスクについては家族と率直に話し合い、抑圧感のない暮らしをして頂く為、理解を得られるように努めている。</p>	○	<p>安全を優先するとADLの低下、本人の残存機能を生かしたいと思うとリスクが伴う、家族の思い、理解を得るための話し合いを今後も継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>日常的にバイタルチェックを行い記録をつけている。状態変化時は早めに訪看や往診医に相談し、指示を仰ぎ、状況により受診している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬支援はある程度出来ているが、副作用までは把握しきれていない。</p>	<p>○ 体調変化時は処方箋を見て副作用の把握につとめている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>食材の工夫や水分量、運動を働きかけることで、排便薬の減少に努めている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの身体状態に応じて個別対応の支援をしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの健康状態に応じ食事摂取量、水分量を把握し支援している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>取り決めに基づいて感染症に対する予防、情報収集に努め対応している。全員がインフルエンザの予防接種を受け、ノロウイルス他予防策として消毒の徹底を行っている。</p>	<p>○ 今後も感染症対策は継続していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理用具、台所排水の消毒を毎日行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。冷蔵庫、冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ベンチやプランター等を置き、季節感を感じられるよう工夫している。		冬季間の落雪予防の為融雪工事を実施し、玄関まわりの安全対策をしている。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	音の大きさや、光の強さには、その都度配慮し調整をしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間の食卓イスや、ソファーを利用し、好きな場所で自由に過ごせるよう配慮している。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	利用者が使い慣れた物や好みの物を置いて安心して過ごせるよう配慮している。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	毎日の掃除の際の換気に加え、必要に応じた換気、温度調節の配慮している。		室温確認の為、各居室に温度計を設置した。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者の状態に合わせ、手すり等を設置により安全に歩行できるよう支援している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの残存機能を活用し、自立した暮らしが出来るよう支援しているが混乱や失敗が生じた場合はその都度、職員一同で話し合い、力を取り戻せるよう支援している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏は畑や玄関周りの花の鉢植え等に、水やり、収穫などで外に出る機会の支援をしている。又玄関先、花畑にベンチを置いて利用者が涼しんだり、ひなたぼっこが出来るような工夫をしている。</p>	

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>センター方式を活用し、利用者の把握に努め利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴むよう努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>一日の流れの中でゆったりと過ごす場面を設けるよう心がけている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>狭い空間の中でも、一人ひとりのペースで暮らしていけるよう配慮している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>コミュニケーションが難しい利用者もいるが、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>外出希望の利用者には出きるだけ個別対応しているが、外出を嫌う利用者もいる為、外へ出かける機会を増やせるよう支援していきたい。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>体調不良時はその都度訪看のNSや家族と連絡を取り必要に応じて受診している。今後も不安なく過ごせるよう配慮していく。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その時々状況や要望に応じた柔軟な対応が出きるよう心がけている。今後も安心した暮らしが出きるよう支援していく。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>家族からの要望には出来る限り対応しており良好な関係が保てるよう心がけている。更に信頼関係が築けていけるよう努めていきたい。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>来設者には、アットホーム的な雰囲気を持って成しゆっくりして頂けるよう支援している。</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	多いに増えている。 少しずつ増えている。 あまり増えていない。 全くいない。 町内会、ホームの行事には、お互い声を掛けあい参加する事でつながりが深まっている。又災害時地域住民との協力体制も出来、避難訓練にも参加して頂いている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない 新人職員の増加によりチームワークを重要視し、生き生きと働ける職場である為の配慮を今後も継続する。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 全員とはいえないが出来る事はサービスに反映させるように取り組んでいる。今後も利用者の、望んでいる事を察知し、サービスの向上に努めたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない 外出行事、イベント等にも気軽に参加して頂き、その都度家族から感謝の言葉を頂いている。今後も家族の協力を得ながらサービスの向上に努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

環境面では恵まれており、近くには春採湖、大型ショッピングセンターがあり絶好の散歩コースとして利用しています。散歩中には近所の庭の花を見せて頂いたり、春採湖の自然を満喫しながらヒブナを見たり利用者喜んで頂いています。医療面でも近くに総合病院他個人病院もあるので通院は便利です。運営推進会議を通して町内会、地域との連携も出来、お互いのイベントには声を掛け合い参加し交流を深めています。春には、玄関先に、利用者と一緒に花壇用の花を買ってきてプランターに植え、畑にも野菜の種をまき、収穫を楽しみ食卓を賑やかにしています。ホーム内では近所の方がカラオケ、ハーモニカ演奏、他ボランティアグループの方達が手づくりのゲーム、楽しみながら手足の運動等をして下さるので利用者も一緒に楽しんでいます。筋力低下防止の為、リズム体操、個々の残存能力を考慮しスクワット運動、家事参加への場面作り、1F・2Fの利用者同士の交流。又利用者の互いの居室訪問等の自主的な交流も増えてきている。散歩を日課として取り組んだ結果、現在は外出に対して利用者からの積極的な要望も多くなってきている。